

話題のサービス使ってみた(第1回)

おまかせAI OCR、設定してみた

2020.06.05

手書きの書類や帳票、無くしたくてもなかなか無くならないのが企業や組織の実情だ。手書きの文字を読み取って、Excelのシートや業務システムのフォームに入力する作業は、1つひとつに神経を使う上に、繰り返しの作業で疲労も重なる。

そこでBiz Clip編集部では、NTT西日本が提供するAI OCRサービスの「おまかせAI OCR with DX Suite(以下、おまかせAI OCR)」を例に、その使い勝手と読み取り能力を実体験してレポートしたい。おまかせAI OCRは、AI OCRの代表的なサービスであるAI insideの「DX Suite」をベースに、NTT西日本が提供する、中小企業での利用も想定した導入しやすく使いやすいサービスだ。「AIなんて難しそう」と感じる中小企業の経営者や担当者の方にも、実際に導入したときのイメージをつかんでいただけたらと思う。

今回は、おまかせAI OCRの使い勝手をチェックする。おまかせAI OCRは、クラウド型のサービスとして提供され、ユーザー側に特別な設備や機器は必要ない。手元の複合機で書類をPDFファイルなどの画像データにでき、クラウド型のサービスにアクセスできるパソコンとインターネット接続環境があれば大丈夫(※)。画像データをクラウドに送ると、文字を認識してテキストデータとして戻してくれる。

※利用には「フレッツ 光ネクスト」等やプロバイダーの契約・料金が別途必要

5ステップで設定から読み取りまで完了

おまかせAI OCRは、ブラウザーベースの操作画面を使って、簡単なマウス操作を中心にして手軽に使えるサービス。実際の操作の流れは5つのステップに分かれる。その5つとは、「アップロード」「読み取りモデル設定」「テキスト読み取り」「変換チェック」「ダウンロード」。難しいAIの用語は出てこない。



おまかせAI OCRの読み取り操作における5つのステップ

業務でさまざまな帳票や書類を読み取るには、事前に「アップロード」と「読み取りモデル設定」のステップで、帳票や書類を登録する。帳票や書類の「どの部分を、どのように読み取るのか」をあらかじめ設定。そのために、登録したい帳票や書類をスキャナーで読み取って画像データにしてアップロードし、おまかせAI OCRの操作画面上で帳票や書類の中から文字認識する枠や文字種別を定める読み取りモデル設定をする。

読み取りモデル設定が終わったら、実際に帳票や書類の手書き文字を読み取る作業に移る。ここでも、読み取る帳票や書類の画像データをアップロードするステップは欠かせない。次の「テキストの読み取り」のステップで、AIが手書き文字を読み取る。そして、読み取った結果が間違っていないかを確認する「変換チェック」のステップを経て、最終的な読み取り結果をテキストデータとして「ダウンロード」する手順だ。

それでは、実際の操作を画面のデータを見ながら確認していこう。

マウス操作で読み取り枠を設定… 続きを読む